

# グリーンサイエンス21便り (12)



## ヒトは本当に賢いのか、愚かなのか

須藤 隆一 (すどう りゅういち) 生態工学研究所代表

ヒトの学名はリンネの時代から、*Homo sapiens*と命名されている。生物の名前は原則としてラテン語で名付けられており、*Homo sapiens* はヒト・賢いという意味である。ヒトは自らを賢いというほど知恵が高いか考えてみたい。生物は名付けられている種類は3,000万種程度である。実際には10,000万種あるいはそれ以上の生物がいると推定される。生物の世界から名前もつけられず消失してしまう種も多いはずである。生物は、現在ではモネラ界、原生生物界、植物界、菌界、動物界の5界に大きく分けられる。さらにモネラ界2門、原生生物界12

門、植物界12門、菌界2門、動物界23門に分けられる。モネラ界は核を有しない細胞で原核生物ともよばれる。また核を有する生物は真核生物とよばれる。現在世界中で感染が広がっているウイルス(COVID-19)は生物ではない。しかしながら増殖するという点からみれば生物にもなる。このような中間体がどうしてできたかという点、細胞から遊離した核酸(DNAあるいはRNA)が自己増殖機能を有したものと考えられる。遊離した核酸は、もとの細胞に入るとその細胞の代謝を利用して増殖できる。このため、ウイルスは宿主特異性がきわめて高い。ウイ

ルスは原核生物の分裂過程で起こった2次的産物とみなされ、これからも新たなウイルスが発生する恐れもある。ヒトは動物界、脊椎動物門、哺乳類綱、霊長目、ヒト上科(テナガザル科、オランウータン科、ヒト科)、ヒト科(ゴリラ、チンパンジー、ヒト)に分類される。ヒトは古代より2足歩行を行うようになった。足が長く、脳が大きく、つかむもつ能力がヒト科のなかで最も優れている。ヒトが飼育する家畜まで含めると全動物量(バイオマス)の20%以上を占めるようになり、限られた容積、面積(環境)の中で人口が77億にも達し、2050年には100億にも達すると見込まれる。トノサマバッタに類似したサバクトビバッタ (*Schistocerca gregaria*) はときどき急激に無数に増えて餌がなくなり急激に全個体群が死んでしまうことがある。この状況と地球の人口増加は同様

であるのではないかと案ずる。地球温暖化等の環境破壊は一向に収まらない。ヒトより愚かな他の生物には自分の住み家を破壊する種はいない。自らの住み家の破壊はヒトの愚かな最たるものである。生物学を学んで日頃から疑問に思っていることは、ヒトが周年出産可能であること、またこれと関係していると思われるが、ヒトの♂は♀の胸に興味を抱く―これも周年出産可能と関係があるのではないかと思われる。



サバクトビバッタ